ARATANO
FIELD
CAMPUS
BOOK

新野人

vol.2

阿南市新野町で３年間にわたって
地域創生を学んだ大正大学の学生が
「新野」の魅力を紹介します。

新野フィールドキャンパス読本

そこには山があり、川があり、街がある
そして遠くない彼方に海原が見える
1200年にわたって受け継がれてきた遍路道
悠久の歴史に彩られた町で暮らす人々
自然の恵みに寄り添いながら
新しい産業に挑戦してきた
ひたひたと押し寄せる時代の波音
ここには地域創生の今と未来がある

あなんし　あらたのちょう
阿南市新野町
地域創生フィールドキャンパス

はじめに　4p
新野人の魅力　5p
新野百景　6p
新野の産業　8p
私たちの歩み　9p
個人テーマ報告　10p
実習セレクション　18p
フィールドキャンパスの可能性　20p
新野MAP　22p

はじめに

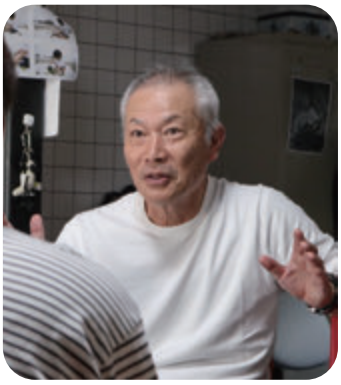
大正大学地域創生学部3年生阿南班リーダー
三田裕希

私たちは今回、1年次と同じメンバーで阿南実習に行くことが出来ました。全員が再び同じ実習地となるのは地域創生学部の中でも私たちだけで、「阿南に帰りたい」というメンバー全員の想いが強かったからだと思います。これは、1年生の時に新野町の方々に温かく迎え入れていただき、実習中もたくさんのご協力やご支援をいただいたからです。外から来た私たちをこれだけ引き付けることが出来るのは、新野町の大きな地域資源です。1年生の時は自転車に乗って新野町内をくまなく取材しました。大学生が自転車で走っている光景は衝撃だったのではないでしょうか。しかし、このことで町民の方々が私たちをより身近に感じてくれたのか、訪問先でお茶を出してくれたり、釣りに連れて行ってもらえたりと、かけがえのない経験の連続でした。

この3年間、阿南市で実習をすることが出来て本当にうれしく、この機会を作ってくださった岩浅阿南市長をはじめとする市役所そして新野町の方々、1年生の時に指導していただいた坂本文武先生や3年生の担当教員である鈴江省吾先生をはじめとする大学関係者、実習に関わっていただいた全ての方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。そして、このたび感謝の気持ちを込めて新野町の魅力と私たちの実習の成果をまとめました。

この冊子を読んで、多くの人が新野町を訪れてくれることを祈っています。

発刊にあたって



大正大学地域創生学部講師
鈴江省吾

人口減少を食い止めて東京一極集中から脱却しようと全国の自治体が次々に地方版総合戦略を策定した平成28年、大正大学地域創生学部は誕生いたしました。以来、「地域からニッポンを変える原動力となる人材育成」を理念に、経済・経営学を基に様々な地域の課題を解決するための学びと知識の創造を目指しています。

そして、学部が最も力を注いだのが地域実習です。1期生たちは全国7カ所の自治体で約45日間にわたって長期滞在し、地域の人たちと親交を深め、それぞれの生活・産業・文化を学び、課題を探し求めました。なかでも阿南班の8名が新野町で過ごした日々は、その温かい人柄や風土と相まって若い彼らにとって忘れられない強烈な印象を焼き付けたようです。そして、2年次、東京実習で新野町の特産品をPRする活動を通してその思いはますます強くなりました。私は3年生になった阿南班の担当教員を務めましたが、学生それぞれが設定した個人テーマの調査研究活動をはじめ、今回も新野町の皆さんに多大なるご協力ご支援と温かい励ましをいただきました。

そしてこのたび、県南地域づくりキャンパス事業の支援を受けて「新野町に恩返しをしたい」という学生の思いを冊子と動画という形で実現することができました。彼らを魅了した新野には全国が抱える地域創生の課題と未来への光が凝縮されています。その魅力を少しでも多くの人に知ってもらいたい。そして、移住を考える都会の若者、また地域創生を学ぶフィールドを探している大学や高校関係者の皆さんに伝えたい。新野で地域創生を学ぼう！
このフィールドキャンパス読本であなたも新野ファンになってください。

新野人の魅力
学生が憧れる新野のみなさん

竹林を舞台にしたコンサートを開催する
「竹林コンサート」創設者
「枝川誠也」さん。

若くして起業し車整備の会社を起こし、
まちづくりに熱心な 「西川達也」さん。

県南地域を中心に「防災意識向上」を
掲げて地域防災士として活動する
「青木正繁」さん。

「人間一人でも世界を変えられる。
実習を通して人間力をつけてほしい」
と素晴らしい名言を残した
「関山秀泰」さん。

横浜から移住して
週に一度の絶品パン屋さんを営んでいる
「黒川真太郎」さん。

新野の地理と人脈に関して
右に出る人はいない
“歩く地図”の 「畠山栄泰」さん。

新野で起きているすべての素敵なことに
関わっている「縁の下の力持ち」の
「服部常悦」さん。

プライベートで「竹林コンサート」の
ステージを作ってしまう(良き意味)
「青江德訓」さん。

新野の様々な地域活動に参加している
「阿地畜産」の「阿地建和」さん。

「阿南チーム」の皆さん、ありがとう!
新野公民館長　服部常悦

大正大学地域創生学部「阿南チーム」の8名の皆さん、3年間の地域実習ご苦労さまでした。そして、このように立派な報告書を作っていただいて、感激しています。1年次に新野町へ来られた時は、大学生として初々しく、町内を自転車に乗って駆け巡る姿に感動を覚えたものでした。実習では多くの町民と知り合い、インタビューをとおして新野の理解を深め、その成果として冊子「新野人」を作成していただきました。2年次の首都圏東京での実習では、新野と都会を結ぶ具体的な取り組みを進められ、新野へも何度か足を運んでくれました。そして、地域実習の最後となる３年次はそれぞれが個人テーマを持ち、新野へ帰ってきました。調査・研究・関係者等との調整、アンケートや実証実験を行うなど、精力的に活動され、最終日には多くの町民が参加する中で報告会を行っていただきました。内容は、この報告書に記載されているので省きますが、それぞれの集大成として素晴らしい成果が出ていたと思います。皆さんは地域実習を通して、新野町に新しい息吹を吹き込んでくれました。どうかこの経験と自信をもとに、自分たちの進路を切り開いてください。

新野百景

二十二番札所平等寺

高野山真言宗の寺院。白水山（はくすいざん）、医王院（いおういん）と号する。本尊は薬師如来。四国八十八箇所霊場第二十二番札所で、平等寺につながる遍路道は阿南室戸歴史文化道に指定されている。

平等寺仁王門

仁王門に安置される仁王像二体「立像」。
高さ170cm、胴回り100cm、建立された年月は不明であるが、300年以上経っていると思われ、相当損傷がひどくなっている。門の建物は昭和5年に大工棟梁で秋山の関山宗兵衛氏が先頭に立ち、三カ年の歳月をかけて再建されたと伝えられている。

平等寺の白水

この名水は平等寺の境内に湧出している。
弘仁六年（815）弘法大師が四国巡礼の砌、太龍寺より新野の大根坂を超えたとき五色の瑞雲が天にみなぎり、その中に薬師如来像を刻んで安置し加持水を求めるため井戸を掘ったところ乳のような白水が湧き出したという伝説によるものである。

月夜の逆杉（さかさすぎ）

弘法大師が、夕方一夜の野宿をした時に、沈んでしまった三日月を元に戻して明るくしたという伝説の土地は月夜と名付けられ、その際に大師が挿した杖が大杉となったがすべての杉がみな下を向いていることから逆杉と呼ばれています。
千二百年の間、生々と繁り木の間の周りは660センチ（二丈二尺）もの大木になり徳島県指定天然記念物として有名。

オヤニラミ

桑野川上流の新野西小学校裏付近には美しい珍魚オヤニラミが生息している。オヤニラミはスズキ科の仲間で、名前は体の横についている模様が親を見る子どもの目のように見えることからともいわれている。県指定天然記念物で、町内にはオヤニラミ清流博物館もある。

轟神社の樟群生

轟神社境内の周囲には天然記念物に指定された樟の群生がある。
この樟は今から六百年ほど前の鎌倉時代の中頃に、境内の周囲に植えられたものが成長し今日に至ったものであると言い伝えられている。
巨木の本数は大小十本で、周囲の太さが最大で6.35メートルもあり、境内にうっそうと茂り身が引き締まるような、おごそかな神域をかもし出している。

お釜の滝

桑野川上流、喜来の集落を流れる小川に沿って奥に登ると太古の老木に囲まれた山地に大釜小釜や釜神社がありますが、ここは新野の秘境で荒倉山から湧出した清水が土を流し岩をけずり急流となり釜神社のすぐ奥で小釜や大釜の滝を形成している。日照が続き水に困った時は釜神社に祈祷をすると必ず雨を降らしてくれるという伝説もある。

中村園太夫座（岡花座）の木偶人形

桑野川の北岸線を西へ上って行くと、岡花傍示に着き、左側の田んぼの中に杉と樟、たぶの木などの生えた社が目につきます。
岡花地区の八坂神社には徳島県で数座しかない人形浄瑠璃の道具が格納されております。
その起源は古く、文化年間（西暦1802年）から氏子によって受け継がれ、県指定有形文化財（彫刻）の頭が六点も含まれる。
この人形を使った当地の人形座「中村園太夫座」は「岡花座」と呼ばれて、今も市内外で公演活動を続けている。

新野の産業「タケノコと6次産業」

かつて甲子園で旋風を巻き起こした新野高校。次から次にニョキニョキとヒットが生まれる打線はタケノコ打線と呼ばれました。豊かな竹林が育む良質のタケノコは飛ぶように売れた時代もあり大きな屋敷はタケノコ御殿と呼ばれました。探して掘るのは大変な経験、労力とコツが要りますが、その旨味と歯ごたえは絶品です。しかし、竹林の手入れが大変で放置される竹林対策が喫緊の課題です。新野では以前からタケノコの水煮や缶詰を作る会社があり、今では様々な果実等の加工品も大規模に生産され、地域の雇用に貢献しています。

また、近年はかつて木炭や木材の集積地であった利点を生かし、おがくずを活用した菌床椎茸の生産が盛んで、「しいたけ侍」は大正大学阿南チームの特産品PRイベントの定番メニューとなっています。そのほか、イチゴ、洋ランなどの施設園芸、肉牛の肥育、すだちやミカンなど、温暖な気候と良質の水を活用した農業が盛んです。もう一つ、阿南市に本社のある世界的なLEDメーカー日亜化学工業（株）の創業地としても有名です。

私たちの歩み（1･2年次リーダーの想い）

新野人と地域資源MAP

1年次リーダー　亀ケ川朋幸

私たち、そして大学にとっても初めての「地域実習」。1年次は「地域を知り、地域に学ぶ、地域の中で」をキーワードに、新野町を拠点に取材や地域行事に参画して活動しました。

取材活動では町民の方々にお借りした自転車で町内を駆け巡り、新野町内で活躍する方々約50人に面談しました。そして地域の何を愛し、どのような未来を見据えて活動しているのかを伺い、ひとつの冊子「新野人」としてまとめあげました。また、「人」という最高の資源を可視化するため人をテーマに地域資源マップを作成して、地域創生の糸口を探りました。

「地域行事への参画による体験型地域学習」では、町民の皆様と一緒に秋祭りや全町運動会、竹林コンサート等に参加し、地域の仕組みやそれを支える人の想いに触れることができたと思います。

食を通じて阿南をつなぐ

2年次リーダー　土屋 光

２年次の東京実習は「都市と地方の共生」をテーマに、大正大学のある巣鴨で行われました。私たち阿南実習グループは「食を通じて東京と阿南市をつなぐ」をテーマにイベントを開催し、「食」では焼き椎茸と焼き竹ちくわ、「物販」では、すだち、すだちシロップを販売しました。また、竹細工やすだちサイダーの試飲で阿南市らしさを実感してもらう機会を創出しました。学年全体活動としては、山形県の「新庄まつりinすがも」を開催し、学生は運営に携わりました。また2017年6月には有志で「阿南市の魅力を食を通じて東京で発信する」を目的に任意団体「あなんフェス」を立ち上げました。

これまでに大学内のイベントや朝市で4回、阿南市で2回出店をし（2019年1月時点）、リピーターやファンの獲得にも成功しています。今年度には同実習地域の後輩学生や阿南市にゆかりのある学生が参加し、学外での活動も計画しています。たくさんの方々のご協力のお陰でここまでイベントを持続していくことができました。今後も活動を継続していきたいと思っています。

3年次個人テーマ成果報告1

平等寺を核とした町おこし

大正大学地域創生学部3年　須藤 彰哉

霊水コーヒー

この企画は、1年の実習に谷口副住職へのインタビューで平等寺の霊水を使用したコーヒーを売りたいと聞いたのがきっかけになりました。実際に、境内に湧く霊水と新野在住の高場さんが扱っている東ティモールのコーヒー豆を組み合わせたものを1杯300円で販売し53人の方に購入していただきました。「平等寺に訪れた目的、性別、年齢、どこから来たのか、味、値段の感想」をアンケート調査したところ、45人の回答をいただき、値段も丁度良く美味しいと言う評価でした。女性が多く、お遍路目的で来たという人の中には県外や海外からの人もいました。販売する前に、不定期に平等寺でカフェをしている木島さんと言う方に1日どれくらい売れるのか、売れる時間帯などを教えていただいただのがとても参考になりました。最終的に1万6千円の売り上げがあり平等寺に寄付しました。

〈販売している様子〉

新野まち歩き

この企画も、1年の成果発表会で平等寺の駐車場をわざと移設させ新野のまちを歩いてもらうことを提案し好評だったことがきっかけになりました。車で平等寺に来る人は目の前に駐車場があることでお参りが終わったら直ぐに次の寺へ行ってしまい、橋を渡って新野のまちの良さを知って貰うことが出来ないことへの打開策でした。夏にスポーツ企業のインターンシップでスタジアムでの活動を体験し、都会でもどうしたらもっと人を呼び込められるのかに苦心しているのがわかって共通点があると考えたからです。実際には駐車場の移設は土地の関係もあって実現できませんでしが、「どうしたら」「何があれば」歩いてもらえるのか平等寺を訪れている約10人に聞き取り調査をしました。食、自然、文化があったり景色を観ることが出来ればという意見やレンタル自転車や平等寺は時間も会わせやすく夕方に来る人が多いので民泊（シームレス民泊など）や夜の景色について考えたら良いとの意見をもらいました。隣の美波町の日和佐を視察した時、薬王寺にちなんだ写真スポットがあったので平等寺にもあればおもしろいとも感じました。

〈販売結果を副住職に報告している様子〉

〈薬王寺に基づいた写真スポット〉

新野への想い

実習では本当にお世話になりました。部活の合宿以外で長期、しかも40日間以上も地元から離れたこともなかったので、正直に言うと実習前はバイトも趣味も出来ない、地元の友達とも会えなくなるので行きたくない気持ちと、ずっと都会暮らしだったので田舎生活には憧れがあり楽しみたい気持ちが入り混じりギクシャクしたスタートでした。しかし、新野町を訪れてみると毎回たくさんの人に温かく迎えてもらい名前も覚えられていてやっぱり田舎の人って良い人だな、来られて良かったなと言う気持ちになりました。1年次の実習があったからこそ3年次の個人テーマも親身になって協力して下さったと思うので、2回の実習で人と人との繋がりや人脈を増やすことの大切さを学びました。東京に帰ってきてからは学んだことを活かし最近興味を持ちはじめたスポーツの外部サークルをネットで探し多くの仲間が出来ました。また、新野の食べ物や竹林など今にも手を伸ばせば届きそうなぐらい綺麗な星空の景色が今では好きです。卒論でも引き続きよろしくお願いします。

3年次個人テーマ成果報告2

新野町での 持続可能な地域実習を目指して

大正大学地域創生学部3年　土屋光

今後5年、10年と続いていくであろう新野町での地域実習をより良いものにしていくために必要なことは何かについて、過去２年間の実習の研究や町民の皆さんへの取材を通じて調査し考察しました。常に「学生よし、地域よし、大学よし」の地域実習を念頭に置いて考え、現在の私自身の将来像である「地域実習に関わり、いつか新野町での実習に貢献したい」というものに沿ったテーマとしました。

仮説

持続可能な地域実習にしていくためには、
継続的に行える活動が必要である。

活動経過

事前学習では過去2年間の実習内容や成果を分析し、地域実習に入ると仮説に基づいた取材や地元の会合に積極的に参加して調査を重ねました。その後、超防災キャンプや民泊での体験なども行って最終的な提案を報告書へまとめました。

実践

取材による調査（地域実習でお世話になっている方々、地域で積極的に活動している方々、民泊施設のオーナーへの聞き取り）。新野町で活躍する地域団体への訪問（ワイワイ塾、商工振興会、シームレス民泊推進協議会、アウトドア＆テントクラブへの聞き取りや会議への参加）。超防災キャンプ・民泊体験への参画（実習班の他メンバーと連携した企画運営）など。

考察

取材では地域実習に対して様々な意見をいただきました。総括してまとめるのは非常に難しいのですが、「町の人たちと一緒に悩み、考え、実践する地域実習」が重要であることを結論といたしました。実習指導講師として、公私で大変お世話になった関山さんがよくおっしゃっていた「地域を知るには、人を知れ」ということに尽きると思います。
持続可能な地域実習には毎年取り組みつつ更新していける内容が必要です。また、新しいことに取り組むことも必要です。ただ単に繰り返しになることを防ぐために、少しでも変化がある方が持続可能性が増すのではないでしょうか。例えば、新野秋祭りであれば最初はお手伝い中心であったが今年度は実際に学生で出店しました。今後は会議への参画や企画の手伝いなどをして活動の幅を広げていけば、学生の学びも増え同じことの繰り返しも防げると感じました。

新野町への想い

3年間大変お世話になりました。一年次に引き続き、三年次でも取材活動や行事を通じて皆さんと交流し、調査・研究をしました。元気で魅力的な新野人の皆さんと絆が深まり、こんなにたくさんの経験ができる新野町で実習ができたことは私にとって大きな財産です。
これからも私自身は卒業研究やプライベートで、後輩たちは次回の地域実習でお世話になることになると思いますが、引き続きどうかよろしくお願いいたします。

竹林コンサートを地域の誇りに

～集客プロモーションから～

大正大学地域創生学部3年　三田裕希

きっかけ

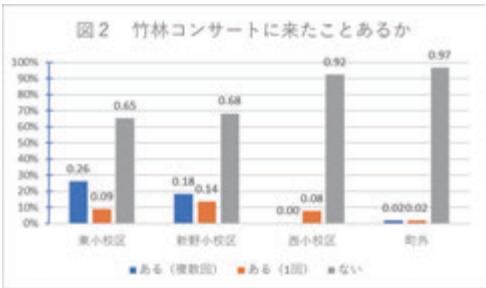
一年生の時、新野町民の方々に取材を通じて、多くの皆さんに熱い思いを語っていただきましたが、将来どんな町になってほしいかとの質問に対して、外からどんどん人が来てくれるというよりは、今住んでいる人たちがずっと住み続けてくれるような町になってほしいという意見が多くありました。このことから、ずっと住み続けたいと思う魅力的な町にするには、地域に愛される何かが必要ではないかと考え、その舞台として私は竹林コンサートを選んだのです。

それは、アマチュアの方々が出演する地元色の強い町民参加型のコンサートで、1年生で参加した時には演奏する人たちの目が輝いていて普段お会いするときと違った一面を感じたからです。このように普段と違う一面を引き出すことが出来るのが竹林コンサートであり、これが生きがいを持つことにつながるのではないかと考えました。

仮説

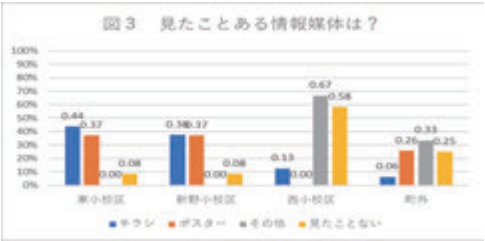
「竹林コンサートのチラシを見てくれる人が増えたら西小学校区の来場者が増える」

町民の方にコンサートの認知度調査を行ったところ、西小学校区の人たちがあまり来ていないことが分かりました。また、この調査を分析するとチラシを見ていない人が多く、周知不足からコンサートに足を運んでいないのではないかと考えたからです。



活動経過

仮説に基づいて、西小学校区の人たちへの周知を強化するためにチラシの作成を行いました。右図にあるのが今回作成・配布したチラシです。西小学校区にチラシを20部配布し、地域別にチラシの効果を比較するために東小学校区と新野小学校区でも20部ずつ配布しました。配布方法は、1軒1軒、直接お宅に訪問するポスティングで行いました。



実践結果・考察

以上のようなチラシ配布作戦で竹林コンサートへの誘客を図りましたが、西小学校区の人たち約100人のうち来場者はわずか5人ということで、残念ながら思うような結果は得られませんでした。しかし、これまでコンサートの来場者数を調査しているデータはなかったので、今回の調査データを来年以降の集客プロモーションに活用できると考えています。また、当日のコンサートでは私と亀ケ川くんの二人で司会を担当させていただきました。司会の立場にたってみると、本当にたくさんの人が運営に関わっていることが分かり、町民が一体となってイベントが運営されていることに、竹林コンサートの未来も明るいと感じました。また、今回も1年・3年生合同チームが本番ステージで歌とダンスを披露し、会場を大いに盛り上げることができました。

3年次個人テーマ成果報告4

地域のものを使い、新たな付加価値を創造する

大正大学地域創生学部3年　吉田瑞希

きっかけ

実習前に目標とした私のテーマは「地域の人が帰ってきたいと思う町にする」で、1年次での経験を踏まえて、都市と地方の特色を生かしながら経済的かつ福祉的効果を兼ね備えたプランとして
①新野の新鮮な野菜の通信販売
②地域特産物「すだち」の商品開発
③高校生の国内交換留学の3つを設定しました。
しかし、実習が始まり地域の人と話をする中で、農業者の高齢化で生産量が限定されてしまう、高校留学には教育委員会や施設面での問題など、実習期間内での実現性が困難な状況であることがわかり、「地域の新しい特産品を生み出す」というテーマに絞って活動を行いました。ただ、そこに至る過程の中で、新野の農業の現状を学んだり、高校生とのワークショップを企画運営することで、新たな発見を得ることもできました。

仮説

「すだち」を使ったこれまでにない製品を開発することで、多くの人に「すだち」の魅力を知ってもらえる。徳島県を代表する「すだち」は関東ではサンマにかけるぐらいの認識しかないのが実状だが、実際は様々な加工品も作られています。しかし、香りを活かした製品はなく、疑問に感じていたので、今回は「すだちの香りを活かす」ことに重点をおいて活動をしました。

実践・考察

柑橘系の臭気成分にはリラックス効果のある「リモネン」が含まれており、すだちにも多く含まれています。その他にも、「すだち」は独自の「スダチチン」という成分を持っており、この特性を活かした製品を作りたいと考えました。そこで私は「すだちを使ったアロマワックスバー」を考案し、新野の農業生産法人「西地食品」さんのすだちスライスを乾燥させてドライフルーツにしたものを、蝋を溶かした固形物にトッピングして香りを出すようにしました。合わせてアクセサリーとして新野町名産の竹を生かした「竹灯籠」を制作しました。制作にあたっては関山さん、服部館長、天羽さん、岡川さんに大変お世話になりました。そして、この試作品を新野秋祭りとJR阿南駅前で開催したあなんフェスで展示販売を行いました。販売結果は以下の通りです。また、新野町内の美容室「キャンディー・スポット」さんにご協力を頂き、店内で販売実験を行いました。その結果、アロマワックスバー・竹灯籠ともに、「作ってみたい」という声をいただきました。また、特にアロマワックスバーは年代を問わず女性に人気で、男性はプレゼント用の購入が多かったです。

新野町への想い

私は今回の実習で多くの体験をすることができたと感じています。当初のプラン通りにはいかなかったものの、それぞれに結果を残すことができ、研究と実践の両面にわたって並行して実施することができたと思っています。これも、私たちをずっと見守って、ご協力いただいた新野町の皆さんのおかげです。今回の成果を踏まえ、次年の卒業研究に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

	イベント名	新野秋祭り	駅前イベント	訪問販売	竹林コンサート	計
種類	アロマ大 400円	800(2)	0	1600(4)	800(2)	3200
	アロマ小 300円	600(2)	0	1500(5)	300(1)	2400
	アロマ小 すだち 350円	0	350(1)	350(1)	0	700
	アロマくま 450円	0	450(1)	1350(3)	0	1800
	竹灯籠 ①600円	0	0	0	0	0
	竹灯籠 ②700円	700(1)	0	0	0	700
	竹灯籠 ③1200円	0	1200 (1)	0	0	1200
	計	2100	2000	4800	1100	10000

すだちの魅力を再発見する

大正大学地域創生学部3年　伊東茉柚

テーマの意味

すだちの魅力を再発見するというテーマで活動を行ないました。
地域外の方に魅力を再発見してもらうのではなく地域の方々にこれまでになかったものを知ってもらうという意味です。

経緯

1年次に阿南市で実習を行なった際に地域の方々は私たちが知らないすだちの使い方を知っていました。地元に帰った際にすだちの知名度が低いことも知りました。また、関東の人は「目黒のさんま祭り」の影響もあり「すだち＝サンマ」という使い方しか知らないと思います。すだちはさまざまな使い方があることを情報発信したいという想いで活動しました。

活動内容

婦人会の方とすだち料理をつくり、試食会を開催、地域の方々にも参加していただき、感想や意見共有をしました。すだちのマーマレードを作り町民の方々に試食していただきアンケートを行いました。
すだちマーマレードを民泊（パンダヤ）にて宿泊者に朝食で出してもらい感想をいただきました。
また、すだちのレシピをInstagramで情報発信しました。

Instagram「すだちレシピ」8枚投稿
フォロワー　41人
いいね　最高　52人
（2019年2月19日時点）

実習の成果

すだちマーマレードをあなんフェスにて試食。（34人）
　おいしい　31人　普通　2人　好みではない　1人
　20代～30代の方から好評を受けました。

すだちマーマレードを民泊（パンダヤ）にて宿泊者に朝食で出してもらい感想をいただく。（8人）
すだちの風味が生きていて良いと思う。（女性　40代）
色がもう少しきれいだと見た目がいいと思います。（女性　？代）
香りは良いが少し苦みが強い。（女性　62歳）

感じたことと今後の課題

地域の方々はすだちの使い方を熟知していることと、
私たちが知らないこともたくさん知っていることがわかりました。
SNSの利用者は多いが特定の地域で拡散するには直接会う方が効果があることもわかりました。
すだちマーマレードは市販で販売していますが知名度はなく町民の方々から好評でした。
しかし、作るのに４時間ほどかかったり、失敗する可能性が高いため作るのが大変です。
今後どのようにすだちを広めていくか、すだちマーマレードはどのようにして使ってもらうかが課題となりました。

「人」という資源で新たな関係人口をつくる

大正大学地域創生学部3年　亀ケ川朋幸

成果物：Web版「あらたの会える通信」URL　https://aratanoaeru.wordpress.com/

きっかけ

一年生の実習では自転車で町内を駆け巡って取材を行い、「新野町の好きなところ」「将来の新野町への展望」について熱く語っていただきました。このような「人」と密に接する活動をしたことで住民の方々それぞれの魅力に気づかされ、この魅力を町外の人たちに知ってもらう方法は無いかと考えました。一方で、町内のほとんどの高校生は卒業して市外（県外）の大学へ通い、卒業後に新野町に戻ってくる人は少ないため、町内では子どもや高齢者が目立ち、町を盛り上げていくのに欠かせない若い世代があまりいないことを知りました。町内の祭りや運動会など地域のイベントを今後も安定して継続的に運営していくには若い世代のUターンや町外からの移住交流人口を呼び込まなければならない。このことを念頭に３年次の地域実習では、新野の「人」の豊かさや魅力を内外に広く知ってもらうことで関係人口を増やすことをテーマに設定しました。

仮説

豊富な竹林やきれいな川の魅力に加えて、最高の資源である「人」にフォーカスをあてた発信をすることが新野町をもっと好きになっていただく起爆剤となる。町民の皆さんには、食事をごちそうになったり、海のキャンプに誘っていただくなど公私にわたり本当にお世話になりましたが、これは新野町の四国霊場第二十二番札所「平等寺」を訪れるお遍路さんへの「お接待」の文化が根付いているからだと思います。このお接待の心で「人」という資源を新たな関係人口につなげる一つの手段として「あらたの会える通信」という一つの冊子を発行してはどうかと考えました。

実践

まず、体験型にこだわったWebサイトの制作に着手し、カテゴリーは、新野町民と会話をしているような「新野人」、実際に自分が体験しているような「新野体験レポ」、思い立ったら直ぐに参加できる「イベント・体験募集」の3つに分けました。

考察

まず、成果としてWeb版「あらたの会える通信」を完成させることができました。次に、見えてきた課題は第一に紙媒体（冊子）での発行ができなかった点です。当初、印刷費や体験チケットに必要なコストを補うため冊子の販売を目指していましたが、確実な収益性が見込めない中で持続的な運営ができないため断念せざるを得ませんでした。実習へ赴く前にもっと事業性のあるシステムを構築しておくべきだったと考えます。第二に実習期間終了後の持続的な運営方法を形成できなかった点です。「あらたの会える通信」は東京の大学生が運営する体験型Webマガジンと位置付けており、実習期間中は私が取材して記事の更新ができますが、東京に帰ると更新が困難となってしまいます。最後にWeb版の発信で新野町の関係人口がどれだけ増加したかの検証ができなかった点です。今後は記事をさらに拡充して読者を増やし、体験型民泊の実践で人口増加の検証ができる段階にしていきたいと思います。そのためには新たな取材、記事執筆はもちろんのこと民泊の実施に向けてオーナーの方と本格的に調整しなくてはならないので、今後は休暇を利用して新野町へ赴き、自らの足でさらに取材を重ね、コンテンツの拡充やオーナーとの協議を進めたいと考えています。

今後の展望として、読者が実際に新野人に会いに行ける仕組みの確立を考えており、新野町のシームレス民泊オーナーとの共同企画で「人に会うこと」を目的とした民泊のモデル実験として「民泊体験企画モニターツアー」を私たち学生が実際に体験してみました。一つは町内を流れる川での釣り。オーナーが優しく丁寧に指導してくださるので、初心者でも十分に楽しめます。夕食はオーナーと学生が共同で調理し、食事には他の新野町民も加わって、さらにコミュニケーションを深める・・・こんな体験を「あらたの会える通信」のコンテンツとして盛り込んで「人に会う」システムが確立できれば関係人口の増加につなげることができると手応えを感じました。

コミュニティ維持のための住民意識調査 ～T型集落点検を活用して～

大正大学地域創生学部3年　鈴木大介

きっかけ

新野町ではワイワイ塾・新野商工振興会・シームレス民泊推進協議会といったまちづくり団体が協働しながら様々な活動をしてコミュニティが維持されています。しかし、人口が減少して団体のメンバーの高齢化が進む中で、このコミュニティが10年後も維持されていくのかどうか心配になり、上記のテーマを設定しました。

仮説

私が今回の調査対象とした「元信・貞信」地域は町内を流れる桑野川の上流部の新野西小学校区域に位置します。この地域は人口減少が顕著で小学校も10年ほど前に休校となっていますが、住民同士が助け合って今まで集落が維持されてきました。そこで各家の家族構成で将来のUターンの可能性をうらなう「T型集落点検」を実施することにより、地域の担い手の将来を検証できるのではないかと考えました。

活動経過

1週目：お世話になる方にご挨拶・個人テーマの趣旨の説明
2週目：アポイントメント・打ち合わせの日程が決定
3週目：打ち合わせをして、調査日の決定及び進め方を協議
4週目：チラシ作り・配布（全戸を訪問して手渡し）
5週目：本番（元信集会所）
6週目：まとめ作業

実践

まず、今回のテーマの実践についてお世話になる地域の代表者3名 (阿地建和さん・鎌田勇さん・東村恵さん)にご挨拶を兼ねて調査方法の趣旨と方法を説明しました。次に全体で打ち合わせ会を開き、私の実践したい「T型集落点検」が実現可能か検討していただきました。座談会には多くの人に来ていただきたく、集客を図るためチラシを作成し配布いたしました。本番では12人に集まっていただき、図表を用いて趣旨説明のあと、それぞれの家族構成を付箋に書いていただき、地図上に貼り付けたあと、それぞれUターンしてくれる家族のことや地域の将来のことについて積極的な意見交換をすることができました。

考察

実際に調査をしてみるとUターンしてくれそうな人が2～3人いることがわかりました。今後はこの調査を分析して、集落の維持・活性化に対する提案をしていきたいと考えています。最初はこの「T型集落点検・座談会」の開催で成果が出るか不安でしたが、参加者の皆さんからは「この集落について話す機会がほしかった」「この機会を活かしてまた定期的に会を開こう」「元信・貞信を結びつけてくれてありがとう」「このままだとやばい、危機感を持つことができた」等々、とても前向きな言葉をいただき、住民同士が地域のコミュニティを考えるきっかけづくりができたと感じています。

防災の町で観光交流人口増加を目指す

大正大学地域創生学部3年　高島由行

きっかけ

新野町は津波が来ないということで、民泊と災害時の避難者受け入れを念頭に置いたシームレス民泊などの取り組みが進められています。しかし、災害に強いといわれているものの防災の町としての知名度はなく、安全な町だからといって人口が増加しているなどの大きな変化もないと話を聞きました。そこで、私は新野町が「災害に強い町」であることをもっと知ってもらう方法はないかと考えました。

仮説

私は新野町が「災害に強い町」だと知ってもらえないのは、地域住民やその他の地域外の人々が災害に対してあまり関心や興味等が無いのではないか、また、南海トラフ巨大地震が必ず来るといわれているのにかかわらず危機感や恐怖感等が浸透していないからではないかと考え、もっと防災に関心を持ってもらうことで「防災のまち新野」として交流人口の増加につなげられるのではないかと考えました。

活動経過・実践

このテーマを実行するために、新野町を拠点に活動している地域防災士の青木さんやアウトドアクラブの谷崎さんたちにヒアリングを行い、阿南市の防災の取り組みを調査するため市役所の危機管理課も訪問しました。その結果、 観光と防災を組み合わせた「超防災キャンプ」というイベントを10月27日に開催することとしました。実際の活動概要は次の通りです。

第一週　他地域の防災イベントの調査。
第二週　地域防災士(災害時にリーダーとして活動する人)の青木さんと打ち合わせ
第三週　OTC(アウトドアテントクラブ)のメンバーである谷崎さんと陶久さんにアポ取り。
　　青木さんも含めて打ち合わせを行い「超防災キャンプ」開催を決定。
第四週　阿南市役所の危機管理課を訪問し、阿南市の防災対策の調査とハザードマップ等の資料をいただく。
第五週　キャンプに備えて、災害時にできる簡単料理や防災豆知識を調査する。
第六週　前週に続き、非常食料理のレシピ、防災豆知識、アンケートの作成
　　10月27日 防災キャンプ当日 非常食料理教室と災害豆知識の共有ディスカッション、アンケートを担当
第七週　簡易報告書を作成
第八週　報告書掲示

考察

防災意識を高めるためにはきっかけが大事だと思います。また、観光人口を増やすには楽しさを兼ねたイベントで人を呼ぶための仕掛けが必要です。今回の超防災キャンプは初めての試みでしたが、アウトドアテントクラブの人たちの協力をいただき、オシャレでしかも快適なテント、マット、調理器具、美味しい非常食など日常生活では味わえないキャンプ生活を経験できました。こういったキャンプを自然豊かな新野町で企画していくことで、防災の町としての認知度も高まり、今後の交流人口増加に向けて大いに期待が持てることを実感することができました。

「新野への思い」

１年次と3年次ともに大変お世話になりました。私は実習中、印象に残ろうとして常にボケ続けていましたが、皆さんの印象に残っているでしょうか？（笑）少しでも思い出してくれたら嬉しいです。そして、就職活動が落ち着いてきたら、またメンバーと一緒に新野へ帰りたいと考えています。その時は完全プライベートなので何にも拘束されずに飲酒可能です。（笑）
最後に３年間本当にありがとうございました。

実習photo セレクション

休憩所

イベント運営への参加

あらたの秋祭りや竹林コンサートなどをはじめとする新野町のイベントへ参加するだけでなく、企画運営に携わる。町民の方々と交流を深めつつ、イベント運営のノウハウや町づくりの仕組みを肌で感じることが狙い。

◀あらたの秋祭り2016
一年目は新野商工振興会の出店をお手伝い。準備・出し物のお手伝いも。

◀あらたの秋祭り2018
三年目は学生が出店を企画。新野商工振興会の方々と打ち合わせを行ったり、会議の様子を見学させていただいた。

◀竹林コンサート2018
毎年参加する竹林コンサートの会場設営。豊富な資源である竹に触れる数少ない機会。実習の初めから最後まで、長期的に参加できる。

出典：広報あなん

◀竹林コンサート2018
三年目では竹林コンサートをテーマに研究を行った学生が当日の司会進行を担当。

防災のまちプロジェクト

防災の町を目指す新野町で、「防災× 地域活性化」の糸口を探る。代表的なシームレス民泊から個人の活動まで切り口はさまざま。また新野町は「防災道の駅」の建設が決まっているなど、これから進化し続ける防災の町を肌で体感できる。

◀町内報告会2016
防災意識の向上を目的とし、防災を楽しく学ぶ防災キャンプを提案。

◀シームレス民泊推進協議会2018年
翌月に行われる、外国人宿泊客を想定した防災訓練の会議を見学させていただいた。

◀お試し民泊2016年
開業が迫る各民泊施設でのお試し民泊に参加。岩浅市長をはじめとするシームレス民泊推進協議会の関係者や、徳島文理大学の学生と意見交換を実施。

◀超防災キャンプ2018年
橘防災公園で防災知識を楽しく学ぶキャンプを、OTCメンバーと学生で共同開催。二年前の提案が実現した。

シームレス民泊施設とのコラボ企画

実習期間中に歩きお遍路さんのピークを迎える新野町。民泊では学生との接点は多く、さまざまな場面でお世話になった。歩きお遍路や防災、ゲストハウスなどさまざまな切り口から学びが期待できる。

◀坊主の宿・平等寺
霊水コーヒー販売でお世話に。町の中心としてお遍路さんが集まるこの場所でさまざまな交流が生まれる。二年前の提案が実現した。

◀とまこ
民泊のメニューづくりで意見交換。メニューづくりには学生のアイデアが盛り込まれていく可能性も…！

◀パンダヤ
おもてなしのパンダヤ。アンケート設置協力や取材で何度もお世話になった。オーナーの熱いお話はぜひ一度聞いてほしい。

◀日の丸商店
雑貨屋だった一階は町民の交流拠点に。調理販売の環境が整っているため、ぜひ使ってほしいとのこと。

取材を通じた地域学習

「地域を知るには人を知れ」という関山さんの言葉通り、地域を学び、地域の人と交流を深める大きなきっかけとなる取材。さまざまな学びや出会いがあるだけでなく、自分を成長させる良い機会にもなる。

◀一ノ宮さん
新野愛にあふれる取材では、この風景を残したいと語ってくださった。二年後に完成したふるさと新野写真集は圧巻だった。

◀福持さん
「新野とぼく」というテーマでこれまでの新野町、これからの新野町について学んだ。取材後には中トロのおもてなしも。

◀そよかぜファーム・堂谷さん
これまでの経験だけでなく、人生のアドバイスも教えていただいた。のちに二期生は東京実習で仕入れをし、ブルーベリージャムを東京で販売。

◀岩倉さん
後世山整備登山でお世話になったのち、整備の重要性や里山の会の活動、新野町の山について教えていただいた。

そのほかにも…

成長し続ける新野町での学びはどれをとっても学生の大きな学びとなる！

！ 新野町で六次産業を体感、研究
2017年に提案した六次産業化や六次産業に「人」という資源を合わせた「会える通信」など。
廿枝直売所での販売や筍料理もおもしろい。

！ 地域資源の竹を使った地域活性化
2016年に提案した子供の居場所となる竹のプレイパークや竹灯籠の商品開発など。
竹楽器や竹炭などの活用方法にも注目、遍路道を歩くトレッキングコースの調査やイベント開催も魅力的。

！ ワイワイ塾や商工振興会との企画
実習を全面的にサポートしてくださるワイワイ塾や商工振興会との連携を図り、イベントの企画運営を担う。
会議の様子を見学させていただき、町づくりの仕組みを理解することも重要。

！ お遍路さんの研究
ちょうど実習期間に歩き遍路が多く訪れる新野町で、平等寺の位置づけや、
お遍路さんとのコミュニティ、民泊などさまざまな学びが期待できる。

！ 強く特徴的な新野町の産業を追う
地域資源を活用して様々な特徴を持つ新野町の産業に着目。2016年には加工食品会社の見学ツアーを提案。

！ 新野西小学校の活用方法
川遊びができるなど自然に恵まれた利点を活かし、都会の子どもたちの宿泊学習も既に実施されており、
様々な可能性を秘める。

！ 自然や東西で変わる気候や資源に着目した研究
同じ町内でも農作物の味が違う、筍の裏年の打開策、オヤニラミの保全活動など。

關山さんを偲ぶ

「せっきゃまさん」は、学生にとって新野の「父」であり「お爺ちゃん」でした。町内のいろいろな団体のお世話を一人で何役もこなしながら、現地指導員として学生に新たな発見や出会いをもたらしてくれました。また、町の人に呼びかけて学生の歓迎会をしてくれたり、地域のイベントに連れ出してくれたり、そこにはいつも「せっきゃまさん」の笑顔がありました。本当に感謝しかありません。これからも、新野町そして学生たちの未来を遠くで見守ってください。ありがとうございました。
（關山秀泰さんは昨年10月に急逝されました）

新野町は阿南市の南西部に位置し、桑野川上流域を含め四方を連山に囲まれた盆地のような地形で、
面積の85%は山地となっています。
四国霊場22番札所「平等寺」の門前に位置する馬場地区が街の中心地で、
桑野川に並行して東西に伸びる道路は東山トンネルで橘町に至り、
西は川又・喜来地区から那賀群那賀町に至ります。
南北には桑野町から花坂峠を越えて廿枝地区を通り福井町を抜ける県道が走り、国道55号線に繋がっています。
農林地域で周囲の山地には、竹林が多くタケノコの特産地であり、タケノコの水煮や缶詰加工も行われています。
宮ノ久保地区にある轟神社には樹齢600年のクスの大木が群生しており、新野西小学校（休校）から
川又地区に至る桑野川には県の天然記念物に指定されている淡水魚の「オヤニラミ」が生息しています。

徳島県阿南市
新野町

新野町

名字ランキング

（独自調べ）

1、森

2、久米

3、近藤

作製：地域おこし協力隊　蔵本淳平

新野町の人口

3,492人（平成29年12月時点）
男　1,636人　女1,856人
世帯数　1,390世帯
新野町75歳以上人口　708人
（平成29年11月末現在、20%）
新野町で最も人口が多かったのは、
昭和22年で6,947人（戸数1,217）

新野町の面積

38,636,300 ㎡

新野町の郵便番号

〒779-1510

新野町の主な特産品

米、たけのこ、ふき、いちご、すだち、
しいたけ、竹炭、竹人形、農産物加工品

新野人vol.2（新野フィールドキャンパス読本）
2019年3月発行

発行者：大正大学地域創生学部（東京都豊島区西巣鴨3-20-1）
監　修：大正大学地域構想研究所阿南支局（徳島県阿南市富岡町今福寺42-1）
TEL 0884-49-3899　E-mail　s_suzue@mail.tais.ac.jp

新野人vol.2の動画はこちら

本冊子は「四国の右下」若者創生協議会の平成30年度「県南地域づくりキャンパス」事業により制作いたしました。このキャンパス事業は徳島県南部総合県民局と管内1市4町が連携し、徳島県南部圏域における交流人口の拡大や若者の発想・大学の専門的知見を活かした地域課題の解決を目的として、大学生によるフィールドワーク等を行っています。